

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

与那国島

策定主体：与那国島さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産(策定時)	44	10	59	114	5.8	2.2	2.5	3.8	2,582	219	1,501	4,302
平成 22 年産 (目標)	70	15	60	145	6.8	5.1	5.5	6.1	4,760	758	3,300	8,818
(実績)	55	26	22	102	6.2	2.8	3.6	4.8	3,385	725	788	4,898
(達成度 (%))	(78.1)	(170.0)	(36.0)	(70.2)	(91.0)	(55.7)	(66.3)	(78.9)	(71.1)	(95.6)	(23.9)	(55.5)
平成 27 年産 (目標)	70	15	60	145	6.9	5.1	5.6	6.2	4,830	765	3,330	8,925
平成 26 年産 (実績)	54	4	45	103	5.2	2.3	2.4	3.8	2,798	91	1,071	3,960
(達成度 (%))	(77.0)	(26.7)	(75.2)	(71.0)	(75.2)	(44.7)	(42.4)	(62.0)	(57.9)	(11.9)	(32.2)	(44.4)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	2	—	—	2
平成 22 年度 (目標)	11	—	—	2
(実績)	16	—	—	2
(達成度 (%))	(145.5)	—	—	(100.0)
平成 27 年度 (目標)	11	—	1	2
平成 26 年度 (実績)	7	—	0	2
(達成度 (%))	(63.6)	—	—	(100.0)

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ 「さとうきび栽培指針」の遵守励行を図り、基本的な栽培技術の徹底普及。
- ・ 緑肥作物栽培で畑地へ有機物の還元を図ることにより、土作りによる単収向上が必要。
- ・ 中核的な担い手農家の育成。
- ・ 生産法人の育成。

② 課題に対する取組内容

- ・ 機械化の促進及び担い手農家、生産法人の育成による規模拡大の推進。
- ・ 「さとうきびの日」関連行事として関係機関と連携し、株出管理等の管理作業の普及・導入。
- ・ 農業用水源の確保、かんがい施設、ほ場整備、防風・防潮林等、生産基盤の整備。
- ・ 品質や生産性の向上に向けた、早期高糖性及び耐風性に優れた新品種の普及・導入。

③ 解決した課題

- ・ 干ばつ対策用の散水車等の確保。
- ・ 機械化一貫作業体系の推進。

④ 依然として残っている課題

- ・ 農作業受託を担う組織の育成。
- ・ 単収向上のための適期肥培管理
- ・ 健全無病苗の確保。
- ・ 耐風性、早期高糖、安定多収、株出萌芽性の良い品種への更新。
- ・ 有機物の畑への投入。

⑤ 新たに生じた課題

- ・ 増産に向けた遊休農地の解消及び耕作放棄対策を推進。
- ・ 干ばつ対策における体制の強化。

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	54	4	45	103	5.8	2.2	2.4	3.8	2,798	91	1,071	3,960
平成 28 年産 (目標)	60	10	30	100	6.0	5.0	5.0	5.6	3,600	500	1,500	5,600
平成 29 年産 (目標)	60	10	30	100	6.0	5.0	5.0	5.6	3,600	500	1,500	5,600
平成 30 年産 (目標)	70	10	30	110	6.0	5.0	5.0	5.6	4,200	500	1,500	6,200
平成 31 年産 (目標)	70	10	30	110	6.0	5.0	5.0	5.6	4,200	500	1,500	6,200
平成 32 年産 (目標)	70	10	40	120	6.0	5.0	5.0	5.6	4,200	500	2,000	6,700
平成 37 年産 (目標)	70	10	40	120	6.0	5.0	5.0	5.6	4,200	500	2,000	6,700

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	6	—	0	1
平成 32 年度 (目標)	10	—	2	1
平成 37 年度 (目標)	10	—	3	2

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・ 認定農業者の育成
- ・ 機械士会との連携を含めた受託組織の育成
- ・ 生産組合と受託組織の共同農作業体系による作業効率の向上を図る
- ・ 機械化一貫作業の推進を図る
- ・ 新規就農者の育成

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																										
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1戸あたりの収穫面積は1.3haである。収穫体系は小型ハーベスタ+刈取機で機械収穫率が約37%となっている。 ・生産法人は2法人あるが、経営基盤が弱いため、法人以外の農作業受委託は行っていない。しかしながら、生産農家の高齢化も進行しており、農作業受託できる担い手農家の育成が急務である。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきび増産に向けたオペレータ会議の実施。 <p><担い手育成状況></p> <table border="1" data-bbox="465 783 869 919"> <tr> <td>担い手の数</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>生産法人数</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>生産法人の構成員数</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>生産法人面積</td> <td>11ha</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保。 ・認定農業者の育成。 ・新規就農者の支援。 	担い手の数	12名	生産法人数	1	生産法人の構成員数	3人	生産法人面積	11ha	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の育成と生産法人の組織強化を図る。 ・農作業受託を担う組織育成を図る。 ・単収向上による生産コストの低減を図る。 <p>【目標】</p> <p><担い手育成目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 724 1778 826"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>生産法人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者及び認定農業者の育成を図る。 ・中間管理機構等の制度を活用し担い手農家への農地集積を図る。 ・生産法人は1法人あるが、引き続き、中核的な担い手の育成強化及び法人の組織強化に取り組む。 		H28	H29	H30	H31	H32	認定農業者	1	1	1	1	2	生産法人	1	1	1	1	1	
担い手の数	12名																												
生産法人数	1																												
生産法人の構成員数	3人																												
生産法人面積	11ha																												
	H28	H29	H30	H31	H32																								
認定農業者	1	1	1	1	2																								
生産法人	1	1	1	1	1																								

<p>②農業共済制度への加入促進</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 兼業農家が多い。共済掛金の負担過重感があることで加入率が低い。 無事故の場合、共済掛金が掛捨てになるため、加入への抵抗感がある。 単収が低く、基準収穫量が低いため、被害と認定されにくい。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「沖縄型共済制度」及びさとうきび共済加入促進会議の開催。 パンフレットによる周知活動の実施。 <p><畑作物共済加入状況（H26）></p> <table border="1" data-bbox="465 673 943 775"> <tr> <td>共済加入戸数（率）</td> <td>64.8%</td> </tr> <tr> <td>引受面積（率）</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>支払金額</td> <td>1,822 千円</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小規模農家の加入率が低いため、加入促進を図る必要がある。 共済制度の加入説明会及び加入促進の強化が必要 	共済加入戸数（率）	64.8%	引受面積（率）	46.2%	支払金額	1,822 千円	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業共済制度への加入促進。 さとうきび共済制度の説明会の実施。 「沖縄型農業共済」の積極的な加入推進を図る。 継続的な農業共済制度の周知及び啓発。 <p>【目標】</p> <p><畑作物共済加入目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 534 1839 689"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>28年 (29年産)</th> <th>29年 (30年産)</th> <th>30年 (31年産)</th> <th>31年 (32年産)</th> <th>32年 (33年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戸数（戸）</td> <td>71</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>90</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>面積（ha）</td> <td>89</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>面積加入率（%）</td> <td>68</td> <td>70</td> <td>70</td> <td>80</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> OCR 調査時に農業共済制度について説明をする。 役場、JA、農業共済組合で連携して共済加入の推進を図る。 	項目	28年 (29年産)	29年 (30年産)	30年 (31年産)	31年 (32年産)	32年 (33年産)	戸数（戸）	71	80	80	90	90	面積（ha）	89	90	90	100	100	面積加入率（%）	68	70	70	80	90	
共済加入戸数（率）	64.8%																																
引受面積（率）	46.2%																																
支払金額	1,822 千円																																
項目	28年 (29年産)	29年 (30年産)	30年 (31年産)	31年 (32年産)	32年 (33年産)																												
戸数（戸）	71	80	80	90	90																												
面積（ha）	89	90	90	100	100																												
面積加入率（%）	68	70	70	80	90																												

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考
<p>①作型の選択</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「さとうきびの日」の関連行事による複合型株出管理機の実演会の開催 適期春植の推進及び肥培管理徹底を啓蒙 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 作型体系について、一定程度株出の割合を保ちながら夏植の割合を維持する。 株出管理作業の講習会開催 共同作業による適期植え付けの推進 複合型株出管理機の導入 	

【現状】

- ・夏植主体の作付け体系であるが、近年は株出の栽培技術向上及び管理機の開発により、株出体系への移行が見られる。

<作型別面積割合>

作型	H18	H22	H26
夏植	72.8%	53.9%	52.4%
春植	11.7%	25.5%	3.9%
株出	15.5%	21.6%	43.7%

<単収の推移>

単位：kg

作型	H18	H22	H26
夏植	5,385	6,188	5,191
春植	3,553	2,842	2,279
株出	4,385	3,648	2,375

【課題】

- ・株出の肥培管理不足が見られる。
- ・新植夏植の欠株の補植体制の確立が必要である。

【目標】

<作型別面積割合の目標>

作型	H28	H32	H37
夏植	66.7%	61.5%	61.5%
春植	8.3%	7.7%	7.7%
株出	25.0%	30.8%	30.8%

<単収の推移>

単位：kg

作型	H28	H32	H37
夏植	6,000	6,000	6,000
春植	5,000	5,000	5,000
株出	5,000	5,000	5,000

【計画】

- ・植え付け受託組織の育成
- ・植え付けプランタの導入の検討
- ・作型別肥培管理技術向上のための現地検討会の開催
- ・株出単収向上のため、関係機関と協力し、株出生育状況のパトロールを実施する。
- ・適期肥培管理の実施。

②気象災害に強い生産基盤の整備

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・土地基盤整備率は60.8%と進んでいるが、畑地かんがい整備が1.5%、水源整備が6.2%と遅れている。

【取組の方向】

- ・早期に干ばつ対策調整会議の開催（5月～6月）
- ・水源地の確保。
- ・干ばつ対策における体制整備の強化。
- ・防風・防潮林の整備及び更新

【現状】

- ・干ばつ時にかん水対策緊急事業を実施した。
- ・水源を一部修繕した。
- ・干ばつ被害調査を合同で実施することにより、干ばつ対策協議会及び関係機関の連携強化が図れた

<農業基盤整備の状況（H26年度）>

- ① 土地基盤整備： 50.0%
- ② 畑地かんがい整備： 4.3%
- ③ 水源整備率： 3.8%
- ④ 農地防風林整備： 4.2ha

【課題】

- ・土地基盤整備事業及び畑かん整備事業の促進。
- ・防風林の維持・管理が不十分である。
- ・干ばつ対策に備えた農業用水の貯水池整備。

【目標】

<農業基盤整備の目標>

平成 28 年度～平成 32 年度までの計画

- ① 土地基盤整備： 85.0%
- ② 畑地かんがい整備： 9.3%
- ③ 水源整備率： 5.0%
- ④ 農地防風林整備： 10.0ha

【計画】

- ・土地基盤・畑地かんがい整備計画（要整備面積 542ha）

地区名	整備期間	計画整備面積	目標整備率
南帆安	H23～H29	53.0ha	60%
比川	H27～H31	12.6ha	52%
島仲	H26～H31	56.8ha	73%
野底	H28～H32	66.6ha	85%

- ・干ばつ対策用散水車等の増台（H26 度散水車 1 台導入済）
- ・かん水効果の PR と散水車利用の促進。

③機械化一貫体系の確立

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・生産農家の高齢化が進行している。
- ・地域の実態に即した小型ハーベスタの導入等による機械化体系の確立が必要である。

【現状】

- ・農業生産法人に小型ハーベスタを導入した。
- ・さとうきび専用防除機を導入した。（生産組合）
- ・かん水ポンプを 2 機整備した。

<農業機械等の稼働状況>

	稼働台数	稼働（収穫）面積率
ハーベスタ	2 台	46%
株出管理機	2 台	15%

【取組の方向】

- ・農業機械士研修会の実施。
- ・株出複合管理機の実演及び現地検討会の開催。
- ・植え付け機（プランタ）の更新及び導入。

【目標】

<収穫機械稼働目標>

	ハーベスタ台数	機械収穫率 (%)	収穫面積率 (%)
H28	2	30	25
H29	2	30	25
H30	3	40	30
H31	3	40	30
H32	3	40	30

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産法人等の機械化の普及及び改善。 ・農業機械士の育成。 ・さとうきび生産管理の機械化推進。 ・ハーベスタを導入し、収穫作業の省力化を図りたいが、含みつ地域であるため製品の品質に影響が出るため、導入調整が必要である。 	<p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託組織の整備を図る。 ・オペレータ研修への参加。 ・小型ハーベスタ増台の検討。 ・株出複合管理機の導入の検討。 																									
<p>④地力の増進</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機物等が十分活用されていないため、ほ場までの散布耐性を確立する必要がある。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロタラリア種子購入の助成。 ・夏植に向けた早期、耕起作業の徹底。 ・葉がら、バカスの投入。 <p>＜堆肥センターの状況（利用状況）＞ 与那国町堆肥センター H26実績（5t, 0.1%）</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕畜連携の強化。 ・堆肥センター稼働強化。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥生産の促進。 ・葉がら、バカス、もみ殻の堆肥化促進。 ・堆肥センター運営強化のための調整会議の開催。 <p>【目標】</p> <p>＜堆肥等投入目標＞</p> <table border="1" data-bbox="1144 675 1789 876"> <thead> <tr> <th></th> <th>生産量（t）</th> <th>還元率（%）</th> <th>散布面積（ha）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>100</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>150</td> <td>0.6</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>200</td> <td>0.7</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>300</td> <td>0.8</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>300</td> <td>0.8</td> <td>3.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕畜連携による畑地への有機物投入を推進する。 ・余剰バガス等を活用した有機物の畑地還元を推進する。 		生産量（t）	還元率（%）	散布面積（ha）	H28	100	0.5	1.0	H29	150	0.6	1.5	H30	200	0.7	2.0	H31	300	0.8	3.0	H32	300	0.8	3.0	
	生産量（t）	還元率（%）	散布面積（ha）																								
H28	100	0.5	1.0																								
H29	150	0.6	1.5																								
H30	200	0.7	2.0																								
H31	300	0.8	3.0																								
H32	300	0.8	3.0																								

(3) 技術対策

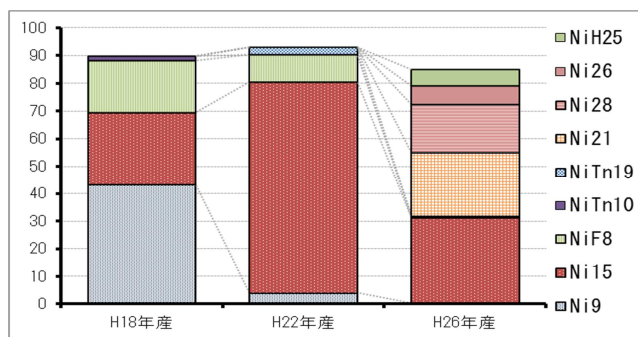
項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																
①栽培技術の普及等	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫作業や水稲作と競合する冬春期の株出管理、適期春植等の農作業が適期に行われていない。 ・収穫面積は、遊休地解消等で一定の面積は確保されており、今後、株出・春植の単収向上を図ることが緊急の課題である。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さとうきびの日」の関連行事の開催。 ・栽培技術向上に向けた優良品種展示は設置 ・適期植付の推進活動(防災無線による島内放送) <p><適期肥培管理実施状況></p> <table border="1" data-bbox="472 708 819 831"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>60%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培管理技術の普及活動。 ・株出管理技術の向上。 ・優良種苗安定確保の実施。 ・適期肥培管理の徹底 	栽培型	達成率	夏植	60%	春植	80%	株出	40%	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥培管理技術の講習会の実施。 ・株出管理技術の現地検討会の開催。 ・優良種苗の確保に向けた講習会の実施。 <p>【目標】</p> <p><5年後適期肥培管理目標></p> <table border="1" data-bbox="1144 572 1491 695"> <thead> <tr> <th>栽培型</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏植</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>春植</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>株出</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適期植付、適期肥培管理、早期株出管理など、栽培指針に遵守した栽培管理指導を強化する。 ・防災無線による適期肥培管理の広報活動を引き続き行う 	栽培型	達成率	夏植	80%	春植	90%	株出	60%	
栽培型	達成率																		
夏植	60%																		
春植	80%																		
株出	40%																		
栽培型	達成率																		
夏植	80%																		
春植	90%																		
株出	60%																		
②優良品種の選択・普及	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・含みつ糖生産地域であるため、多収量、高糖度に加え、黒糖製品の適した優良品種の普及・導入を図る必要がある。 	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定多収性品種の導入。 ・県優良種苗安定確保事業の実施の継続。 ・適地栽培品種の現地検討会の実施。 																	

【現状】

- ・ 県優良種苗安定確保事業の実施。
- ・ 優良品種展示ほの設置（株出継続）
- ・ さとうきび増産に係る関係機関の調整会議の開催

＜品種別作付面積＞

	Ni9	Ni15	NiF8	Ni21	Ni28	Ni26	NiH25
H18	43.3	26.2	18.7	—	—	—	—
H22	4.0	76.4	9.8	—	—	—	—
H26	0.3	31.1	0.7	23.1	17.5	6.5	6.0



【目標】

＜品種構成目標＞

年度	Ni15	Ni22	Ni25	その他
H28	40%	20%	20%	20%
H32	30%	30%	30%	10%
H37	20%	30%	40%	10%

- ・ これまで、農林 15 号を中心に品種構成を保ってきたが、今後の優良種安定確保の状況から Ni22 及び Ni25 の普及に努める。

【課題】

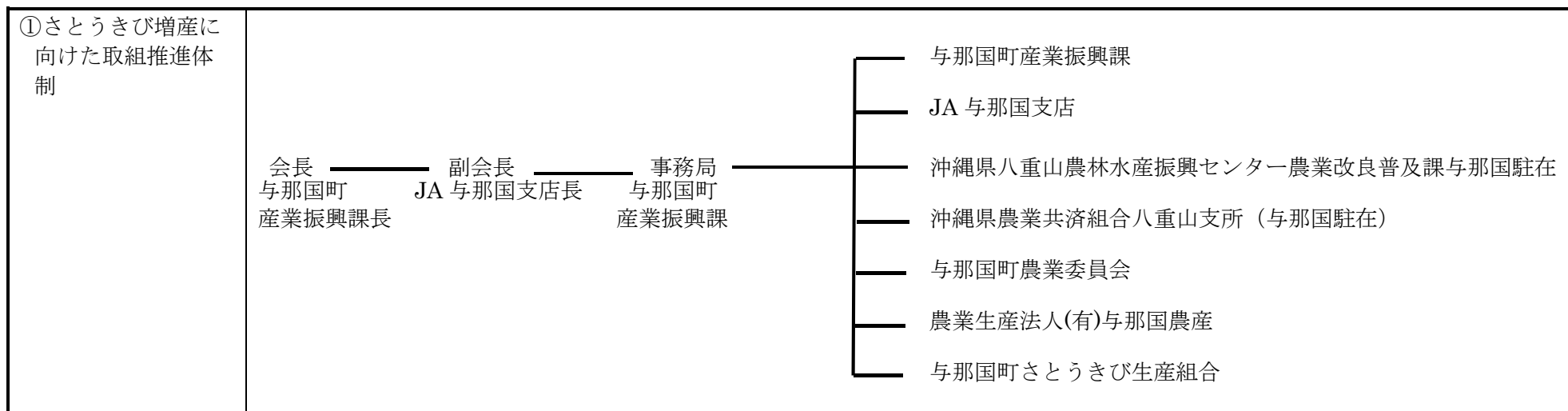
- ・ 優良品種の選定作業（調整会議等）
- ・ 農家自家種苗の品種確認作業及び台帳作成業務。
- ・ 農家への県優良種苗安定確保事業（採苗ほ設置）の周知。

【計画】

- ・ 耐風性。早期高糖、安定収量、株出萌芽性の良い品種への更新。
- ・ 健全種苗の確保。
- ・ 品種の特性を PR して、地域に適した優良品種の普及・導入を推進する。
- ・ 具体的な品種については、今後関係機関と検討し、早期に導入を図る。

<p>③病害虫対策</p>	<p>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の被害低減を図るため、適期防除を強化する必要がある。 ・また、健全種苗の植付等栽培管理を徹底することが重要である。 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イネヨトウ防除（交信かく乱）に係るフェロモンチューブの設置による密度低減対策の実施 <p>＜イネヨトウ交信かく乱事業実施状況＞</p> <table border="1" data-bbox="468 555 1055 671"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施面積</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年度</td> <td>179ha</td> <td>防除普及事業</td> </tr> <tr> <td>H26年度</td> <td>186ha</td> <td>生産安定化等支援事業</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・植え付け時のベイト剤の購入助成の実施。 ・防災無線(島内放送)による病害虫対策の広報活動 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型防除機の導入。 ・一斉防除作業の実施体制強化。 ・適期除草、病害虫防除の徹底。 	年度	実施面積	備考	H25年度	179ha	防除普及事業	H26年度	186ha	生産安定化等支援事業	<p>【取組の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植え付け時のベイト剤購入助成の実施。 ・雑草防除等、一斉防除作業の実施。 ・防災無線(島内放送)による病害虫対策の広報活動の実施。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫の出現時期を的確に把握して、防除することにより、被害を最小限に止めて単収の向上を目標とする。 <p>(27年度 現状) (32年度 目標)</p> <p>単収 4.5 t/10a → 単収 6.0 t/10a</p> <p>【計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイチュウ・ガイダーについては、防除対策の継続実施。 ・他地域からの土壌害虫等の進入防止を図る。 	
年度	実施面積	備考										
H25年度	179ha	防除普及事業										
H26年度	186ha	生産安定化等支援事業										

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について



②関係者の役割分担

参画機関	担うべき役割	具体的取組方策		
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策
与那国町	① さとうきび生産体制に関する事項 ② 担い手対策に関する事項 ③ 地力増進対策に関する事項 ④ 病害虫防除対策に関する事項 ⑤ 干ばつ・台風対策に関する事項 ⑥ 高性能作業機械導入に関する事項 ⑦ 優良品種導入に関する事項 ⑧ 農業共済加入に関する事項 ⑨ 耕作放棄地対策事業に関する事項 ⑩ 農地中間管理機構制度に関する事項 ⑪ 共済加入推進に関する事項 ⑫ 事業導入に関する事項 ⑬ 生産技術に関する事項	① 農作業受委託の促進 ② 生産組織の育成 ③ 共済加入の促進 ④ 農地中間管理機構制度の啓蒙 ⑤ 農業経営簿記講習会の開催 ⑥ 共済加入促進説明会の開催	① ハーベスタ導入支援 ② 全茎式植付プラントの導入 ③ 緑肥作物の植付奨励 ④ 事業導入への協力	① 病害虫の防除体系の確立 ② 地域特性に即した優良品種の選定 ③ 優良品種展示ほ設置 ④ 土壌診断の推進 ⑤ 干ばつ対策への助成支援

	農業委員会	① 農地の流動化等に関する事項 ② 農家への普及・啓発活動に関する事項 ③ 耕作放棄地対策に関する事項	① 農地の利用集積 ② 農家経営の調査	① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証指導	① 耕作放棄地の再生利用の促進
	JA おきなわ 与那国支店	① 生産組織化に関する事項 ② 受託組織に関する事項 ③ 耕畜連携に関する事項 ④ 余剰バカス等の有効利用に関する事項 ⑤ 生産技術向上に関する事項 ⑥ 実証展示ほに関する事項	① 生産組織の育成 ② 受委託組織の育成	① 事業導入への協力 ② 事業効果の検証 ③ 耕畜連携による堆肥センター活用	① 展示ほ設置 ② 品種構成の指導 ③ 株出技術の現地検討会の開催 ④ 耕作放棄地対策の支援 ⑤ 栽培指針の策定 ⑥ 競作会の実施 ⑦ 病害虫一斉防除の推進 ⑧ 干ばつ対策の支援
③毎年度の検証方法・体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年1回の増プロ会議を開催する ・ 毎年、製糖終了後に検証会議を開催する。 ・ 月1回のさとうきび増産に向けた調整会義を開催する。 				

(参考情報)

1. 県（島）の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

与那国島は沖縄本島的那覇から南西へ 509 km、西側の台湾から 111 km の位置にあり、日本最西端の島である。島の周囲は 27.5 km、面積 28.8 k m² 人口は 1,500 人となっている。

気象条件は、亜熱帯海洋性気候に属し、平均気温 23.6 度、年間降水量 2,363.5mm（平年値 1,970～2,000）となっている。

産業別就業構造は第 1 次産業が 15.6%、第 2 次産業 21.2%、第 3 次産業 63.2%となっている。

農業算出額は 29.3 千万円（H26）でそのうち肉用牛が 14 千万、さとうきびが 8 千万となっている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位：ha)

	耕地面積	作付面積	さとうきび	水稻	野菜	果樹	その他
H17	668	323	240	80	2	1	345
H18	668	313	230	80	2	1	355
H19	668	303	220	80	2	1	365
H20	668	303	220	80	2	1	365
H21	665	293	210	80	2	1	372
H22	663	286	210	73	2	1	377
H23	606	286	210	73	2	1	320
H24	548	278	200	73	4	1	270
H25	548	268	190	73	4	1	280
H26	547	258	180	73	4	1	289

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t/ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	68	3	16	87	52.339	48.462	30.064	48.189	3,580	126	472	4,178	12.90
H18	75	12	16	103	53.846	35.530	43.852	50.083	4,028	441	710	5,179	14.40
H19	103	14	25	142	57.593	25.486	31.542	47.124	3,797	356	785	4,938	11.20
H20	71	12	6	89	40.356	17.687	41.378	37.344	2,859	215	261	3,335	13.50
H21	66	4	20	90	58.524	10.961	36.665	51.650	3,880	42	737	4,659	14.30
H22	55	26	22	102	61.881	28.419	36.482	48.110	3,385	725	788	4,898	11.60
H23	50	13	25	88	42.537	29.514	40.813	40.084	2,118	391	1,000	3,509	12.00
H24	48	5	36	89	48.257	25.811	32.742	40.657	2,316	139	1,178	3,633	13.20
H25	48	3	32	83	56.040	18.860	29.610	44.590	2,695	51	950	3,696	13.40
H26	61	3	36	100	44.963	26.152	28.038	38.265	2,828	86	1,047	3,960	12.20

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H19	8	18	20	35	21	102
H20	8	17	19	32	26	102
H21	—	7	9	14	20	50
H22	—	3	6	11	15	35
H23	—	7	7	15	21	50
H24	1	8	15	28	35	87
H25		7	8	19	36	70
H26	1	9	14	10	27	61

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	47	26		4	77
H18	50	19	4	4	77
H19	50	19	4	4	77
H20	46	19	7	4	76
H21	34	18	3	6	61
H22	45	20	4	3	72
H23	41	25	3	9	78
H24	44	22	5	2	73
H25	52	16	4	6	78
H26	41	25	3	9	78

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	41.78	46	12.04	8.93
H18	51.79	61	12.90	8.90
H19	49.38	52	10.86	7.98
H20	33.35	42	13.12	11.94
H21	46.59	65	12.60	9.66
H22	48.98	50	11.73	6.94
H23	35.09	56	11.39	8.69
H24	36.33	50	12.39	8.61
H25	36.97	63	12.58	8.75
H26	39.60	62	10.78	8.45